

平成30年度 学校評価 報告書

報告日	幼稚園名	芦屋市立宮川幼稚園
平成31年3月18日	園長名	山中 朱美 印

1 今年度の重点目標

- 1 「自分から運動遊びをしたくなる環境」を研究する。
- 2 幼稚園や地域の特性を生かした子育て支援や地域とのかかわり
- 3 幼児の教育的ニーズに応じた特別支援教育の推進

2 学校評価の実施方法についての学校関係者評価

- ・保護者アンケートを実施、集約し保護者へ周知している。
- ・職員の自己評価を明確に示し、保護者の評価との差異がないかの検証があるべき。
- ・今年度の課題を明確にし、来年度の園経営に生かそうとしている。

3 学校自己評価結果

(A:十分達成している B:達成している C:概ね達成している D:達成していない)

No.	分野	重点目標	評価項目・取組状況	達成状況	改善方策	学校自己評価結果及び改善方策についての評価
1	教育課程	1 3	○昨年度に引き続き、運動遊びを通して幼児期の体づくりに取り組んだ。 ○昨年度にプラスして「おにごっこ」にも取り組んだ。おにごっこは場所さえあれば道具がいらず、総合的に様々な力がつく遊びである ○幼児の特性を深く理解し、行事のあり方を従来の形にとらわれることなく柔軟に考えて取り組んだ。	B	○子どもの体力が様々な状況の下で低下しているといわれる昨今である。今後も引き続き、運動遊びに取り組むとともに、「自ら」「主体的」に取り組めるような環境づくりを意識して行う。 ○幼児の特性により自己肯定感が損なわれず、高められるような支援を専門機関と連携しながら進める	○体づくりは引き続き取り組むべき課題である。運動量が減っているように感じる ○子どもたちが主体的に取り組むことが大切である。宮川幼稚園のおおらかでのびのびとした教育は先生主導ではなく、自分で感じ考える心を育てている。 ○その時の子どもの実態に合わせた行事運営がなされている。 ○人権的に使わなくなっている言葉の使用についてよく考える必要がある。
2	教育課程 地域との連携	2	○芦屋市就学前カリキュラムに基づき、宮川小学校の就学前教育保育施設の5歳児で年間計画を立てて交流した。宮川幼稚園が連絡調整係りを担って計画を進めた。 ○メンズクラブの方々、小中学校との交流、高齢者施設との交流の機会をもった。エルホームにブルトップを持っていくことを始めた。	B	○宮小校区での5歳児交流について、連絡調整役を担い、来年度も引き続き年間計画をたてて交流する。 ○2学期以降は感染症のこともあり、交流が難しくなっているが、エルホームで集めているブルトップの収集を交流の一つとして継続する。	○宮小校区の就学前教育保育施設5歳児交流が進んでよかった。特に今まで機会がなかったり少なかったりした保育所・園の保護者からとても喜ばれた。 ○地域のきずなが大切と言われている。小中、就学前施設に加えて、地域の福祉施設との交流を大事にしてほしい。
3	安全管理	2	○津波浸水の可能性のある地域にある幼稚園として、避難訓練を見直した。宮小との合同避難訓練、打出浜小学校との合同研修、小槌幼稚園への水平避難訓練、防災参観日を実施した。	B	○今年度初めての取り組みが多かった。それぞれの反省点を来年度の計画に活かす。 ○地域との連携を深める。	○防災教育に力を入れたことがよかった。今後も重要課題として取り組んでほしい

5 総合的な学校関係者評価

適切な園運営がなされている。